

図工美術、大学、美術館が連携して、美術教育の充実を考える研修 みる

7月14日 日

開催概要

13:00 | 受付、開会

美術館コミュニティギャラリー集合

13:20 | ギャラリートーク

参加する子ども達が小グループに分かれ、実際に「対話による鑑賞」を体験します。先生方には、子ども達の生の声をきき、その様子をご覧ください。

14:10 | 「種差展」鑑賞

事前申し込みをいただいた方は、無料です。ここでは、子どもだけでなく大人の皆様にも「対話による鑑賞」を体験していただきます。

15:00 | 実践報告

『小・中学校連携による授業の実践（仮題）』

平内町立小湊中学校 高安弘大 教諭

15:30 | 講演

『美術科と美術館の連携（仮題）』

武蔵野美術大学教職課程 三澤一実 教授

16:20 | ディスカッション

小グループでメンバーをかえながら、設定されたテーマについて話し合っていく形式です。

17:00 | 閉会



対話による鑑賞とは？

「対話による鑑賞」形式のギャラリートークは、美術作品をよく見てその意味を自分で創り出す、鑑賞者中心の学習理論に基づいた鑑賞方法です。一人ひとりが鑑賞に参加し、体験的に学び、共同で知識を構成していく。このギャラリートークを通して美術作品の理解が深まることはもちろん、問題解決能力や主体的思考力、コミュニケーション能力などの知的能力の育成も期待できます。これは学習指導要領「言語活動の充実」につながります。

【お問合せ・アクセス】

青森県立美術館

〒038-0021

青森市安田字近野 185

青森県立美術館

Tel 017-783-3000

Fax 017-783-5244

www.aomori-museum.jp



美術の授業数が減少する中で、
地域における美術教育の充実を図るには。

青森県立美術館では、持続的な、地域的美術教育の可能性を創造していく場をつくっていくことを目指し、「図工・美術、大学、美術館が連携して、美術教育の充実を考える研修」を開催します。先日、中央教育審議会答申では、我が国における教育振興の基本的方向性のひとつとして、学校と地域の連携やコミュニティの形成に関する提言が行われました。いま、地域的美術教育に携わる各学校と大学、美術館は、連携してどのようなことができるのか。美術教育に従事する様々な方々と、ご来館の皆様とともに、考えていければと思います。

今回のテーマは、「みる」です。東京・武蔵野美術大学の学生のみなさん、当館鑑賞サポーターのみなさんによる「対話による鑑賞（※裏面参照）」の実践をご来場の皆様にご覧いただき、実際の教育現場での現状や問題点を共有しながら、連携によるより良い鑑賞教育の可能性を考えます。また今回は同時に、学生企画による展示「若き葛藤展」を当館コミュニティギャラリーにて開催します。学生のみなさんの葛藤がにじみ出る生の作品と作者を前に、小学生／中学生／高校生の3つのグループが、実際に対話による鑑賞を体験します。

- 美術大学生による、若き葛藤展

7月10日 水 - 15日 月・祝

県内教職員対象（担当教科不同）

- 美術教育の充実を考える研修

7月14日 日 13時 - 17時

青森県立美術館 コミュニティギャラリー

| 作家学生12日（金）～15日（月・祝）在廊 | 観覧・参加無料 | 作家学生在廊中は、随時ギャラリートーク可
| 作品により、作家が在廊しないものもございます。|
| 学生不在時は、当館スタッフが対応いたします。| 14日当日は、研修・対話による鑑賞とともに一般公開いたします。| 14日実施、学生と当館鑑賞サポーターによるギャラリートークへの児童・生徒の参加者も募集中！詳しくは裏面をご参照の上、青森県立美術館（017-783-3000、担当 鳴海）にお問合せ下さい。|

- テーマ -

みる

図工美術、
美術館が
大学、
連携して、
考える
研修